

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A (領域ごと) ①話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった ②書くこと 概ね良好な結果であった ③読むこと 概ね良好な結果であった ④言語事項 概ね良好な結果であった (問題形式) ①選択式 概ね良好な結果であった ②短答式 概ね良好な結果であった (無解答率) 概ね良好な結果であった (その他) ・もっとも正答率の高かった設問 9二2 ・もっとも正答率の低かった設問 9四② ・もっとも無解答率の高かった設問 9ー3	国語B (領域ごと) ①話すこと・聞くこと 良好な結果であった ②書くこと 良好な結果であった ③読むこと 概ね良好な結果であった ④言語事項 概ね良好な結果であった (問題形式) ①選択式 良好な結果であった ②記述式 良好な結果であった (無解答率) 概ね良好な結果であった (その他) ・もっとも正答率の高かった設問 3ー ・もっとも正答率の低かった設問 2三 ・もっとも無解答率の高かった設問 3三
---	--

分析

昨年度は B 問題の問題形式①以外がすべて概ね良好な結果であったが、今年度は B 問題の領域①「話すこと・聞くこと」②「書くこと」、B 問題の問題形式の①「選択式」②「記述式」とも良好な結果であった。このことから、授業の中で行っている漢字の小テストなどの取り組みの成果が出ていることがうかがえる。

課題としては、A 問題で全国平均をやや下回り、A 問題の領域では①「話すこと・聞くこと」④「言語事項」の2点が全国平均を下回っていたことがあげられる。今後、授業の中での指導、答え方の工夫などの改善により基礎基本が定着し、学力低位層の割合が減るように、全校体制でより一層の授業改善の取り組みを推進していく。

〇●数学●〇

数学A

(領域ごと)

①数と式

大変良好な結果であった

②図形

良好な結果であった

③関数

良好な結果であった

④資料の活用

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった

②短答式

良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 5(2)
- ・もっとも正答率の低かった設問 8
- ・もっとも無解答率の高かった設問 2(2)、
10(2)
10(3)

数学B

(領域ごと)

①数と式

良好な結果であった

②図形

大変良好な結果であった

③関数

概ね良好な結果であった

④資料の活用

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

大変良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

大変良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 2(1)
- ・もっとも正答率の低かった設問 1(3)
- ・もっとも無解答率の高かった設問 3(2)
- ・もっとも無解答率の低かった設問 1(2)

分析

全体的に良好な結果であった。ほとんどの項目で全国平均を上回っており、A問題の①数と式の正答率は大変良好であった。授業の中での基礎学力が定着してきていると考える。B問題では、②図形が全国平均を大きく上回る大変良好な結果は、特筆すべき点であり、今後、他領域でも小人数や習熟度別授業での工夫改善に生かしていきたい。

また、A問題・B問題とも学力低位層の割合が少なく、学力高位層の割合が非常に高い結果となっていることから、習熟度別授業等の工夫改善に大きな成果があったと考えられる。その一方、A問題B問題ともに④資料活用の正答率が他領域と比べ低い結果となっているので、今後の課題として授業の中で工夫改善する。

今年度、B問題の高位層がさらに伸びていることは数学に対する意欲や魅力的な授業づくりのヒントにもつながると考える。この分析結果をふまえた取り組みと、さらなる授業力の向上を図っていきたい。

○●理科●○

理科

(分野等)

①物理的領域

概ね良好な結果であった

②科学的領域

概ね良好な結果であった

③生物的領域

概ね良好な結果であった

④地学的領域

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 5(2)
- ・もっとも正答率の低かった設問 8
- ・もっとも無解答率の高かった設問 2(2)、
10(2)
10(3)

分析

全体的に良好な結果であった。ほとんどの項目で全国平均を上回っており、4□(1)の物理的領域の正答率は大変良好であった。全国平均を下回っている問題は2問あり、解決策としては、指導に当たって学習事項を表にまとめ規則性を見いだす学習場面をもっと増やす必要がある。

そして、生徒一人一人の学習意欲を向上させるためには、日常生活や社会の特定の場面において、理科で学習した知識・技能を活用できるようにする必要がある。さらに、科学的な思考力を育成するためには、探究する学習活動を取り入れ、考察が設定した課題に正対しているかどうかに留意して指導を行いたい。また、表現力・課題探求力の向上のために自らの考えや他者の考えを検討する場面や、授業の最後に学習したことを振り返る授業スタイルなどを取り入れることが大切である。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

国語 AB、数学 AB において全て全国平均を上回る結果になった。また昨年度比においても全ての正答率が向上し学力全体の改善がみられる。教科ごとの分析をもとにして、さらなる改善と具体的な取り組みを活かしていきたい。

学力高位層と学力低位層についての分析

学力高位層は、昨年度に引き続き全国平均を上回る結果となった。また低位層が顕著に改善し中位層が増えている傾向にも学力向上の取り組みの方向に妥当性があると考えられる。引き続き、高位層の拡大と低位層の支援を続けていきたい。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

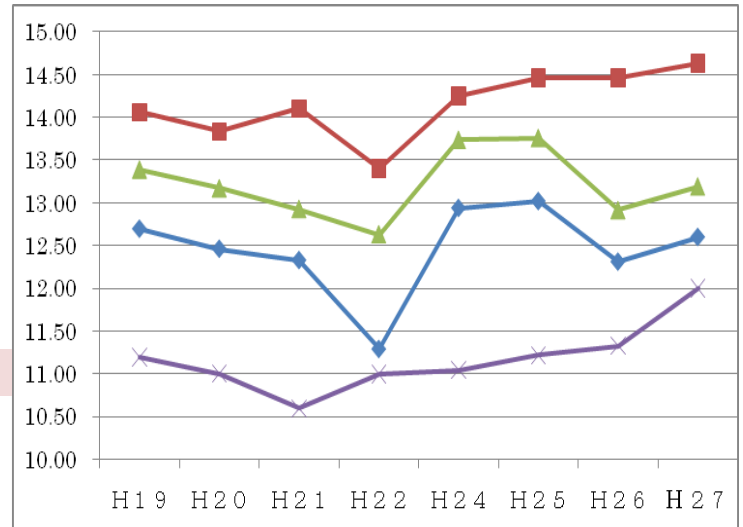
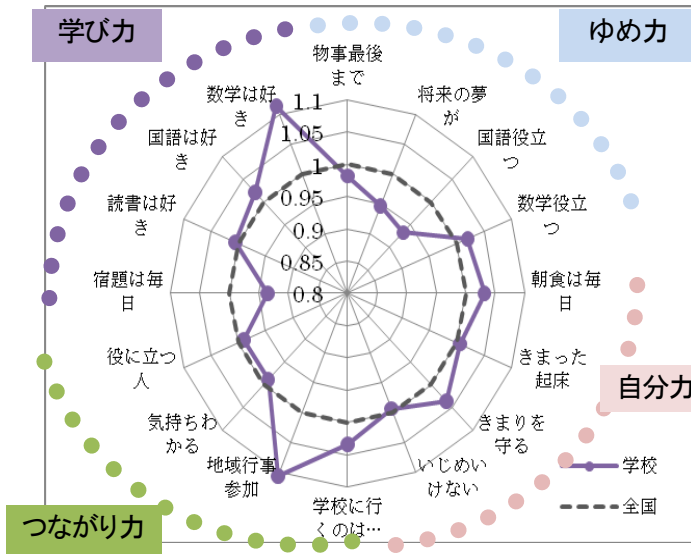
- ① 校内授業研修の実施 *小中合同で実施
 - ・学期に1回は実施する。
 - ・年度ごとにテーマをもって取り組む。
- ② 公開授業週間の実施
 - ・指導計画の充実と授業力の向上を図る。
- ③ 生徒の活動のある授業
 - ・ペア学習、班学習の場面を作り、互いに高めあう。
- ③ 家庭学習の充実
 - ・生活習慣の確立・保護者支援
- ④ 補習学習会
 - ・放課後学習会
 - ・長期休暇中の学習会
 - ・提出物点検（定期テスト・長期休暇後毎）
 - ・専門支援委員による授業の入り込み
- ⑤ ICTを活用した授業づくり
 - ・タブレット端末型ノートPCの活用。
- ⑥ 習熟度別指導の充実

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果

これまでの推移

ゆめ力
自分力
つながり力
学び力



分析

【今年度】・・・(全国平均を1として算出した数値との比較グラフ)

ゆめ力…「数学が将来役立つ」という質問は全 国平均を上回ったが、その他の質問に課題が残る結果となった。ただ、「国語が役に立つ」「物事最後までやり遂げてうれしかったことがある」は約80%～90%以上が当てはまると答えた。

自分力…「いじめはいけない」と答えた生徒が全国平均を下回ったが、約90%以上がいじめはいけないと認識している。結果となっている。その他の質問は全国平均を上回り、基本的な生活習慣は、確立されている。

つながり力…「学校に行くのは楽しい」、「地域行事に参加している」は全国平均を上回っているが、「地域行事に参加している」にあてはまると答えた生徒が約53%であり、少ない理由としては、部活動への参加や学習塾・習いごとが影響していると考えられる。一方、学校行事や学年行事を通しての地域とのつながりはできているので、今後も行事を通しての地域とのつながりを推進していく。「人の気持ちがわかる人間になりたい」「人の役に立つ人間になりたい」は全国平均より低い、約90%以上が当てはまると答えており、一定の理解はある。

学び力…「宿題は毎日する」以外は全国平均を上回っているが、「読書・国語・数学は好き」と答えた生徒が70%より低いことが課題の残る結果となった。原因としてはテレビや、ゲーム、携帯電話、スマートフォンの使用時間が長い生徒が多いことが第一で、家庭と学校が協力して、家庭学習を定着させることが必要である

【これまでの推移】・・・(アンケート結果の4項目を4点満点で得点化し、4つの力それぞれ16.00を最高値として表した経年グラフ)

8年間で「自分力」「学び力」は大きく向上している。「ゆめ力」「つながり力」も向上傾向にある。

★全体を通しては本校の特色である『いのちの学習』を主体に、全学年とも一年間で様々な取り組みを通して「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」を高める工夫を検討し、実践していく。

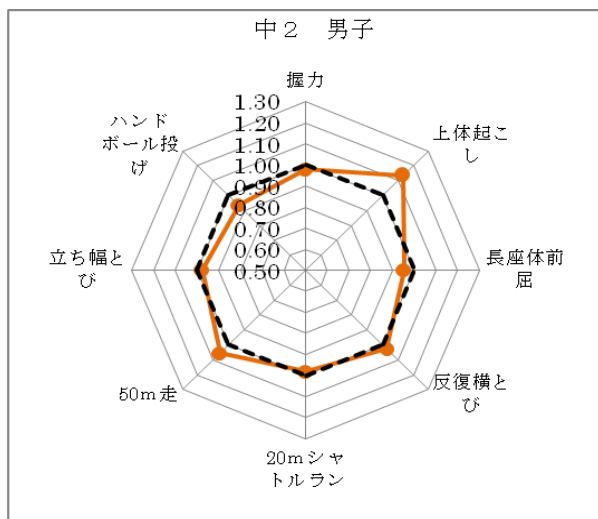
取り組み

- ゆめ力 国際理解学習の充実(1年) 福祉体験学習の充実(2年) 高校調べの取り組み(3年) 朝の読書タイムの実施(全学年)
- 自分力 遅刻防止・チャイム着席の徹底。支援を要する生徒の支援体制の充実。教職員の気づき→学年会→支援委員会→学校全体。生徒会主催の生徒集会(月1回)
- つながり力 生徒会活動から、生徒総会や朝のあいさつ運動での発信。班活動、班長会議、班ノートの取り組み。小学校との連携の強化をする。中学校体験授業、部活体験で生徒会による学校紹介をする。いきいきスクールや小中合同研修会(長期休暇中)。小中合同研究授業
- 学び力 各教科の授業や補習学習会等の充実(生徒の活動のある授業づくり、家庭学習の充実、ICTを活用した授業づくり、専門支援員の授業への入り込み)

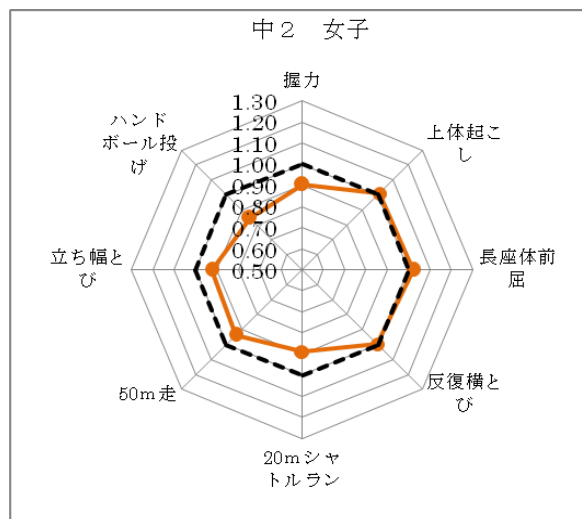
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (中2)



女子 (中2)



分析

男子の結果では、全国平均と比較すると大きく下回っている種目は見られず、上体起こしに関しては良好な結果であった。これは、運動部、外部スポーツクラブへの加入者が多いことや、毎授業で行っている筋力トレーニングの成果が表れてきたことが原因として考えられる。女子の結果では、握力、ハンドボール投げ、立ち幅跳び、50m 走、20m シャトルランなどで全国平均を下回る結果であった。女子における運動部への加入者が少ないことが原因として考えられる。

取り組み

男子は、握力、長座体前屈向上のために、腕立て伏せを指立ての状態で行うこと、週初めの授業で柔軟運動を取り入れることを実施していく。女子は、5 種目において全国平均を下回っているが、特に大きく全国平均から下回っているハンドボール投げ、20m シャトルランの能力向上のために、球技種目の中で「投」の動作について学ぶ機会をつくる。授業前半のランニングの量を増やすなどウォーミングアップの改善を図っていく。

2

3年間の計画

	(各校)	(各校)	(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	基礎・基本の定着と 確かの学力の推進を図る	自ら積極的に体力づくりを おこなう実践力を育てる	思いやりを持ち、助け合う 子どもたちを養う
平成26年度	校内授業研修の実施 ＊小中合同で実施 ・年度ごとにテーマをもって取り組む。 家庭学習の充実 ・生活習慣の確立・保護者支援 補習学習会 ・長期休暇中の学習会 ・専門支援委員による授業の入り込み I C Tを活用した授業づくり ・電子黒板・書画カメラの活用。	2年生で上がっている課題解決のための取り組みを他学年でも実施し、まずは来年度に少しでも全国平均に近づくよう取り組みを続ける。特に女子は、投げ方や、走り方など、運動の「動作」を学ばせる機会を授業でつくり、運動の改善を図る。	・推進体制の（組織）の整備。 ・各分野において取り組み計画の検討・作成・実施・ ・中学校区での合同研修会（生徒指導研修会） ・合同研究授業「体育」小中合同で実施 ・いきいきスクール「美術」「体育」「社会」 ・公開授業週間 7月中旬、12月中旬 ・「英語」授業力向上連携 ・保幼小中連絡会議 ・生徒指導交流1月下旬
平成27年度	校内授業研修の実施 ＊小中合同で実施 ・学期に1回は実施する。 ・年度ごとにテーマをもって取り組む。 公開授業週間の実施 生徒の活動のある授業 ・ペア学習、班学習の場面の活用。 家庭学習の充実 ・生活習慣の確立・保護者支援 補習学習会 ・長期休暇中の学習会 ・提出物点検（定期テスト・長期休暇後毎） ・専門支援委員による授業の入り込み I C Tを活用した授業づくり ・タブレットPCの活用。	授業前半のトレーニングの取り組みが体力向上につながっていると考えられる。そういった取り組みは継続し、授業内の種目の技術習得練習の中で、意図的に、筋力・コーディネーション能力を強化する練習を入れ、種目の技術向上に加え、身体の全体的な体力向上を目指す。	・26年度の検討に沿って年度計画の再計画→実施。 ・計画の評価と見直し、改善。 ・中学校区での合同研修会（I C T研修会）（道徳教育研修会）（生徒指導研修会） ・合同研究授業「算数・英語」小中合同で実施 ・公開授業週間 7月中旬、12月中旬 ・いきいきスクール ・学力向上プロジェクト 組織の運営
平成28年度	校内授業研修の実施 ＊小中合同で実施 公開授業週間の実施 生徒の活動のある授業 家庭学習の充実 ・生活習慣の確立・保護者支援 補習学習会 ・専門支援委員による授業の入り込み I C Tを活用した授業の成果	3年目の集大成として、男子は全ての種目で全国平均を上回ることを目指す。女子は全国平均を半分以上の種目で上回ることを目指す。結果として計画を真摯にみつめ、改善方法を模索しながら、さらなる向上を目指していく。	・27年度の検討に沿って年度計画の修正→実施。 ・計画の評価 ・3年間のジャンプアップ計画の取り組みのまとめ。 ・合同研究授業「英語」「技家」「理科」